

畜糞はウンチになった

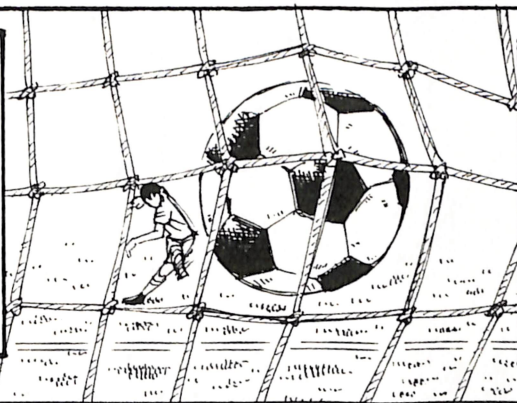
作：シングルト

絵：MOSA



日本語で
「持っている」と
表現することがある

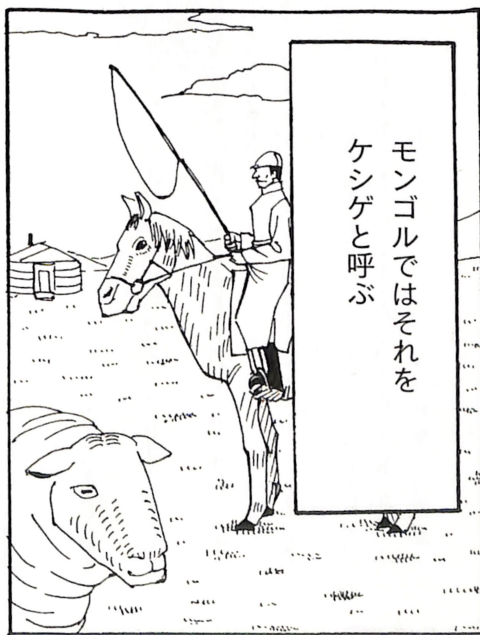
私達は幸運のような
ものを感じる



試合に勝ったり
事がうまく運んだ時

そこでは幸運は人間だけでなく
あらゆるものに宿っているとされ、

モンゴルではそれを
ケシゲと呼ぶ



家畜を売る時、
幸運をキープするため
その一部を残し
とっておいたり



彼ら牧畜民は耕さない

大地の幸運が減るからだ

特に幸運を持っている
ものには目印の
リボンを締めておくのだ



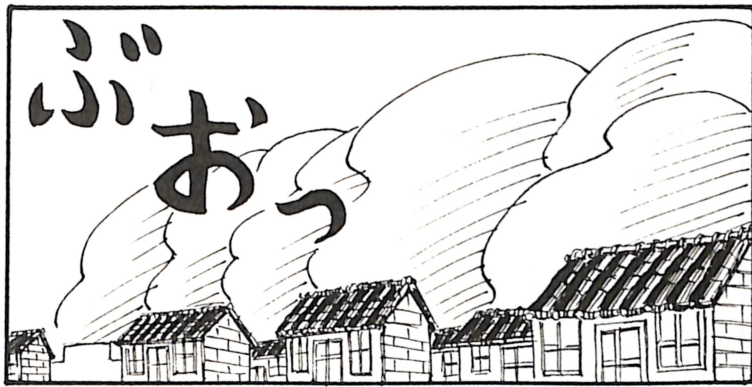
土地も例外ではない

そのため
定住農耕民のように
大地を所有物とみなさない

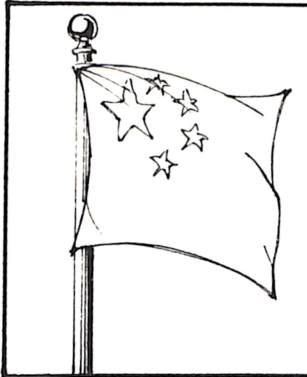


土地に拘らず幸運に拘る

しかし近年、
その拘りに変化が起きている



春先
—



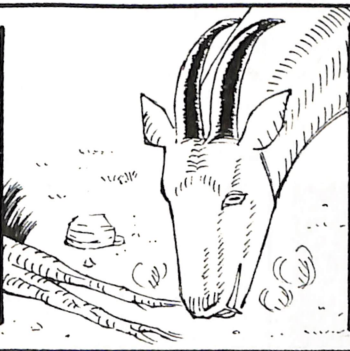
中国政府はその原因を
牧畜民の過放牧に
あると考えた



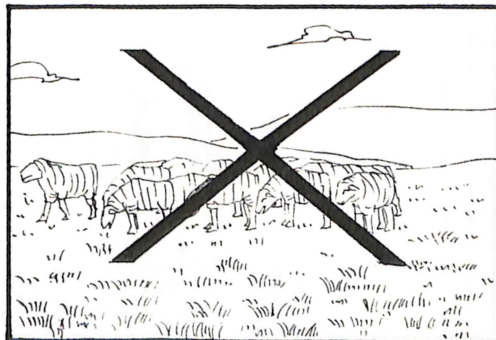
大陸の乾燥地帯から
黄砂が飛来する

禁牧

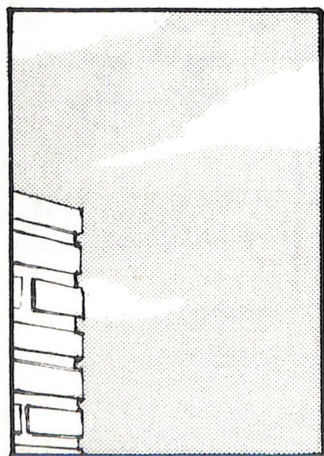
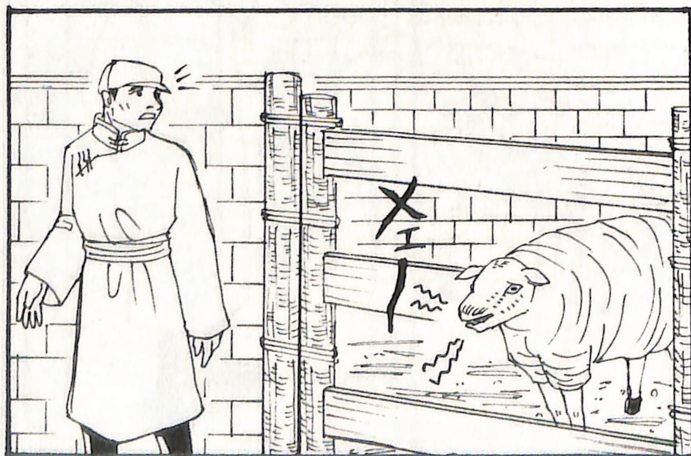
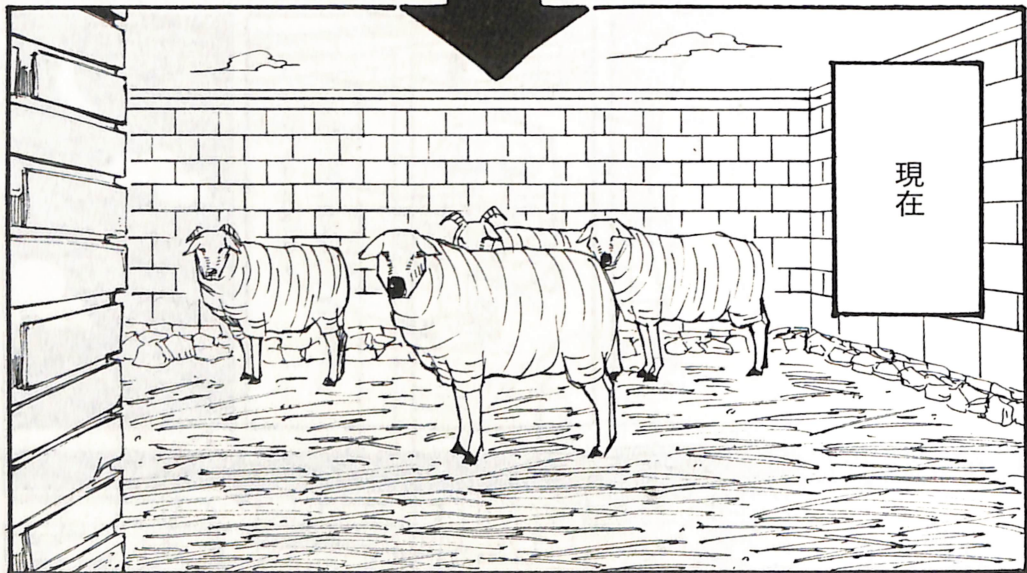
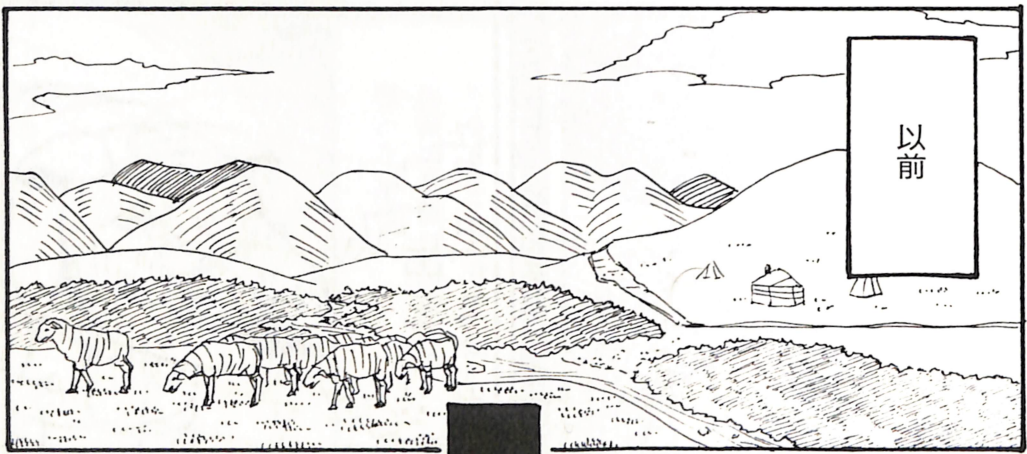
そこから
砂ボコリが舞う

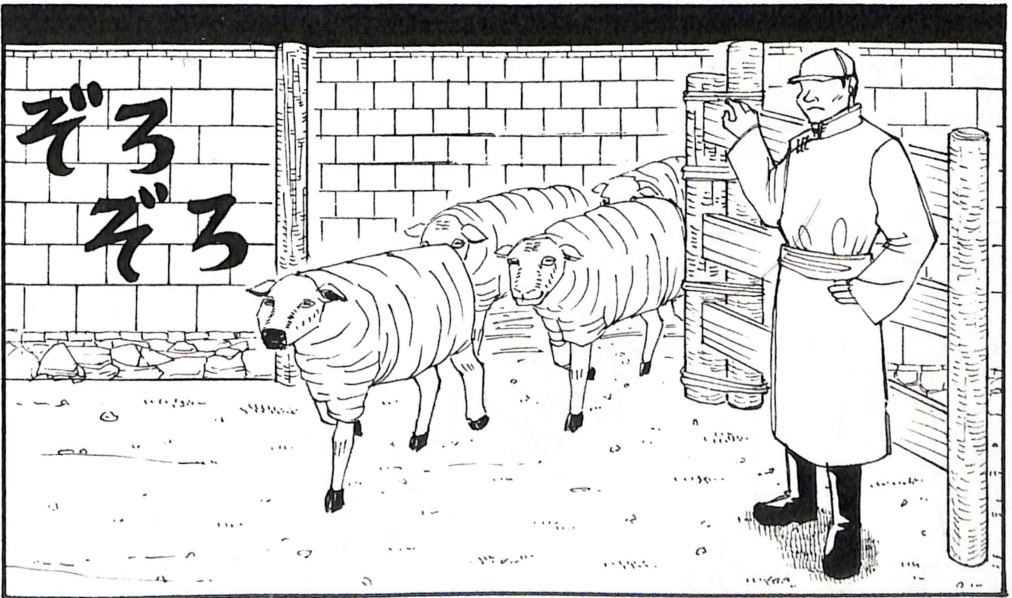
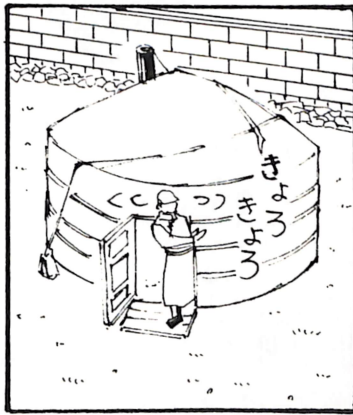
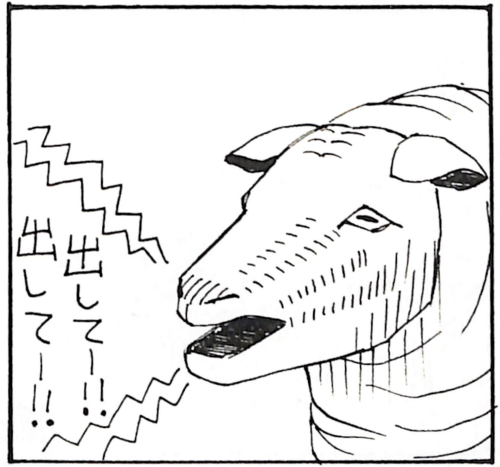
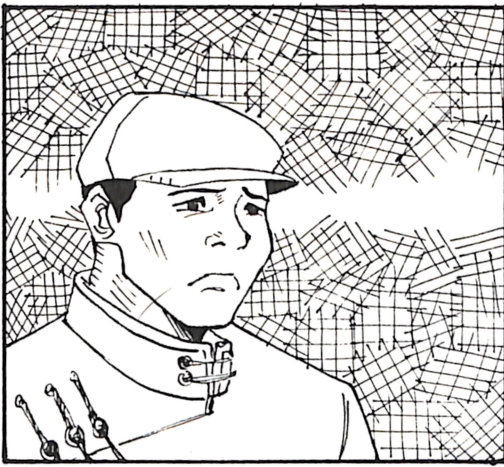


例えばヤギは
根まで食べ
大地がハゲる



政府は
牧畜民に
放牧の禁止を
命令



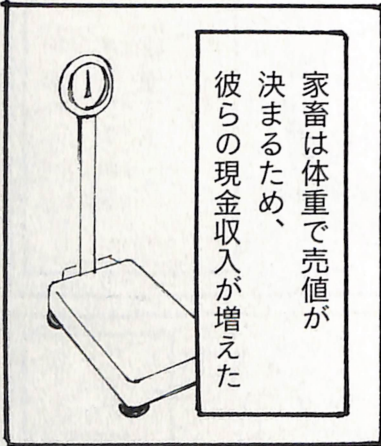




そつすることでも
家畜の幸運が回復すると
願いながら



彼らは役人の目を盗み
深夜に放牧を
行うようになった



家畜は体重で売値が
決まるため、
彼らの現金収入が増えた

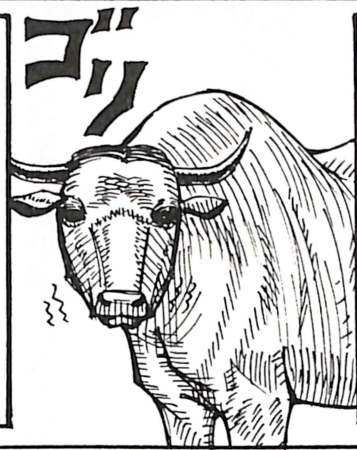


他方、畜舎の中でじっとし
単一飼料を与えられ
体重が増加



これらによって
家畜の糞が変わった

通常、家畜は昼に草原を移動しながら多様な草を食べ

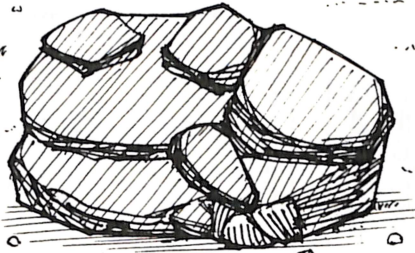


夜に何回も咀嚼し直す

しかし

夜行性化と飼料の単一化によりそこに変化が起きた

そしてそれを排泄する



モンゴルでは畜糞は細かく分類され、様々な場面で活躍していた



しかし畜糞の変化により薬剤に使えなくなり

畜舎の糞は堆肥として草原に還元することもなくなった

畜糞は単なる
ウンチと
なりつつあった



こうして家畜は
飼養し販売されるだけの
ものとなり

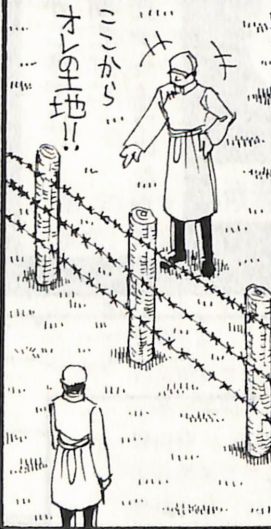
そこに宿る幸運に
拘る者は少なくなった



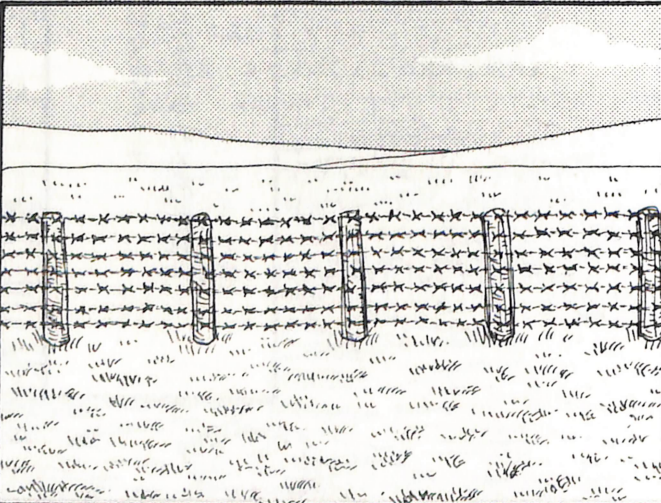
昔、牧畜民にとって
大地は誰の所有物でもなかった

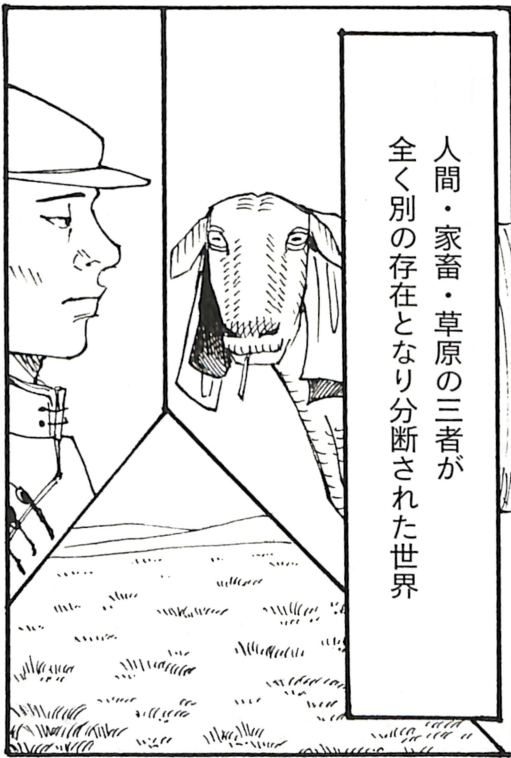


しかし禁牧により
草原が割りふられ、
なわばり意識が育まれつつある

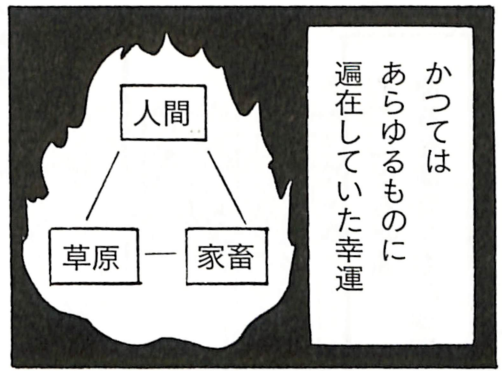


草原との
関わりも減り、
それは単なる保護、
所有の対象となったのだ

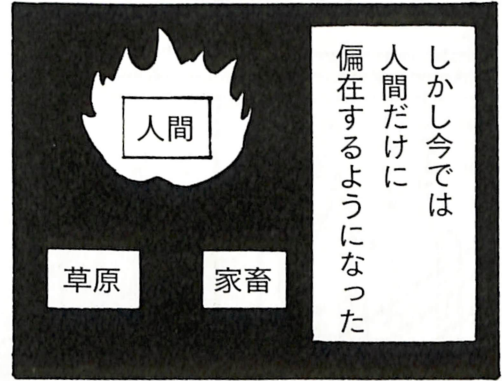




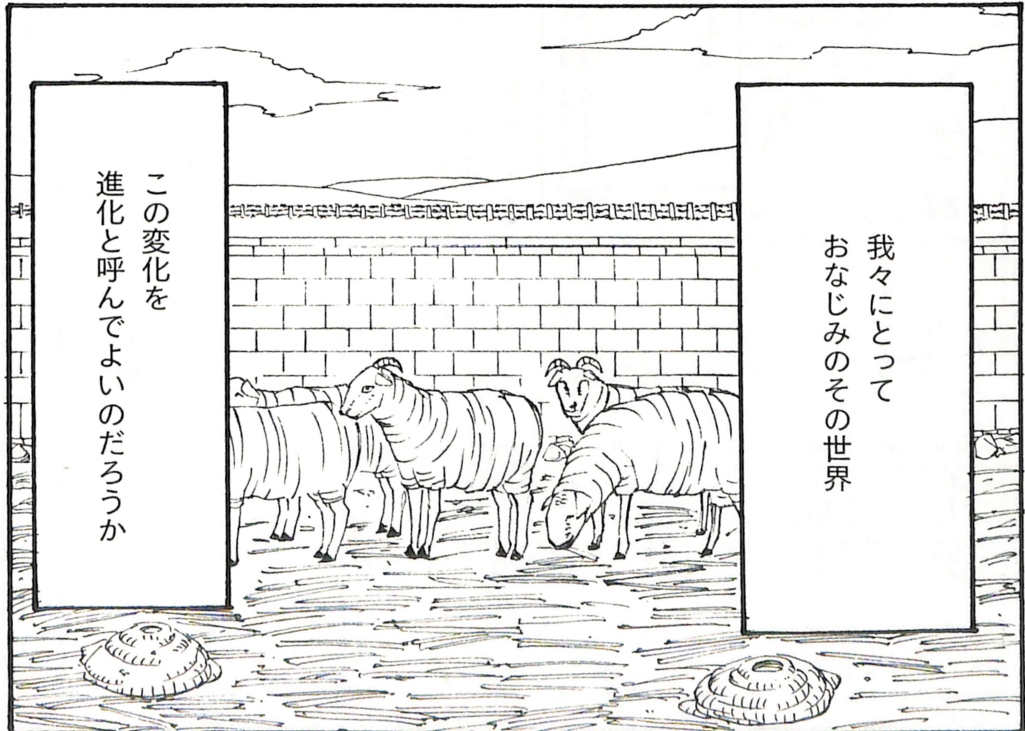
人間・家畜・草原の三者が
全く別の存在となり分断された世界



かつては
あらゆるものに
遍在していた幸運



しかし今では
人間だけに
偏在するようになった



この変化を
進化と呼んでよいのだろうか

我々にとって
おなじみのその世界